



# 中部家保だより

発行：中部農業事務所家畜保健衛生課（中部家畜保健衛生所）

〒371-0051 前橋市上細井町2142-1 電話(027)288-0371 FAX(027)230-8052

## 【記事】

- 1 豚熱（CSF）関連情報
- 2 アフリカ豚熱（ASF）関連情報
- 3 消毒ポイントで車両の消毒をお願いします
- 4 夏も家畜防疫対策を徹底してください
- 5 暑熱対策をお願いします
- 6 ハエ対策のポイントと効果的な方法
- 7 豚用飼料への牛由来原料（ビーフミール）使用再開について

## 【添付資料】

- ・豚熱（CSF）発生状況
- ・韓国におけるASF感染確認状況
- ・牛由来原料（ビーフミール）の鶏・豚用飼料への利用を再開します

## ◆◆ 豚熱（CSF）関連情報 ◆◆

### ・豚熱発生防止対策にかかる補助事業

県内農場で豚熱の連続発生していることを受け、県では「豚熱発生予防緊急対策」として補助事業を実施しております。以下のとおりです。

#### ① 群馬県養豚場分娩舎・離乳舎前室整備事業

- ・対象：分娩・離乳舎における前室設置及び改修費
- ・補助率：1/2以内（上限100万円）
- ・期間：令和8年2月18日までに事業完了 ※予算に達するまで随時受付
- ・窓口：中部農業事務所農畜産課

まだ受付中です！



#### ② 群馬県衛生物資購入支援事業

- ・対象：農場内、農場周囲の消毒のための衛生物資（消石灰および逆性石けん等の動物用医薬品として承認されているもの）の購入費（消費税、輸送費は対象外）
- ・補助率：10/10（1農場あたり補助額上限10万円）
- ・期間：令和7年10月31日（1次締め切り）※令和7年6月16日以降に発注したもの  
令和7年12月26日（2次締め切り）  
令和8年2月28日（最終締め切り）
- ・窓口：群馬県農政課家畜防疫対策室

市町村によっては、独自に豚熱対策支援事業を立ち上げている場合もありますので、そちらも併せてご確認ください。

同じ前室に2つの事業を併用することはできませんが、別の前室に対して事業利用することは可能です。秋季に向けて、農場の飼養衛生管理体制を改めて見直し、環境中のウイルスが豚の鼻先に近づかないような仕組みづくりを進めましょう。

## 参考目 事業で前室設置する目的とポイント

豚舎の内外の境界を明確にし、高いバイオセキュリティの確保を目指すため、前室設置におけるポイントは以下の3点です：

- ① 二重扉であること → 豚舎出入り口が開きっぱなしの状態（豚が無防備に豚舎外の環境に露出されている）をなくす  
（ドアの向き注意）
- ② 豚と人の動線を分けること → 豚と人は、別の出入口にする
- ③ ルールを守りやすい工夫 → 作業員全員が高いバイオセキュリティ対策を維持・継続できる設備とする

事業の利用にあたっては、各農場の畜舎構造、豚や人の作業動線などを十分に考慮する必要があります。

具体的な検討に際しては、かかりつけの獣医師や家畜保健衛生所などの専門機関にご相談のうえ、対応を進めてください。詳細につきましては、中部農業事務所または農政課までお問い合わせください。

## ・再発防止に向けた専門家（防疫アドバイザー）指導事業の活用状況報告

本事業では、現場での指導経験が豊富な養豚獣医師（防疫アドバイザー）が農場を訪問し、豚熱の再発防止に向けた飼養衛生管理に関する指導を行っています。

赤城山麓に位置する養豚場の多くは、

- ・ 山の斜面を背負っていること
- ・ 沢や川が近いこと
- ・ 敷地内に高低差がある

ことなど、共通した地形的特徴を持っています。



これらの条件の下、豚熱に感染した野生イノシシが確認されている地域では、豚熱ウイルスを含む雨水の流入の可能性を示唆するものであることから、重大なリスク要因であると指摘されました。

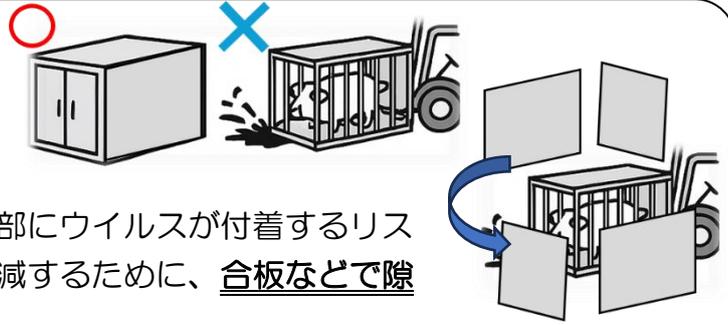
県内では継続的に豚熱ウイルス陽性イノシシが確認されています。豚熱ウイルスはすでに農場敷地内にも存在しているものという前提を、関係者間で改めて共有しました。その中で日常管理についての注意点を1つ紹介します。

## 参考目 豚の移動用ケージの注意点

豚の移動用ケージは、豚を地面に降ろさずに豚舎間を移動させることができるため、防疫対策として有効です。ただし、次の3点について注意が必要です。

### ① ケージの構造

理想的なのは、**密閉された構造のケージ**です。柵状のケージでは、フォークリフトなどのタイヤが地面の土や水を跳ね上げ、隙間からケージ内部にウイルスが付着するリスクがあります。このようなリスクを軽減するために、合板などで隙間を塞ぐ工夫を行いましょう。



### ② ケージの洗浄方法・場所・タイミング

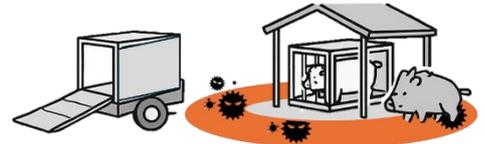
動力噴霧器を使用して洗浄する場合は、**高圧で洗浄するため、汚れと一緒にウイルスが周囲に飛散する可能性があります**。以下の点に注意してください

- ・洗浄場所は、畜舎周辺から離れた場所を選びましょう。
- ・洗浄後は作業着の着替えを行うか、業務終了時に洗浄するようにしましょう。



### ③ ケージを地面に直置きしない工夫を

**豚の移動時にケージを地面（土）に直接置くと、設置部にウイルスが付着するリスクがあります**。ケージを置くところは消毒しやすいよう舗装する、または、ケージ底面を地面より高くすることでウイルスの付着を防止しましょう。



## ・緊急点検にかかる農場立入（R7.5～7月）にご協力ありがとうございました

今回の立入検査では、飼養衛生管理基準の確認に加え、必要と認められる農場には、豚熱ワクチンの接種日齢を早めていただくようお願いしました。立入期間の前後で、管内農場における平均ワクチン接種完了日齢を比較したところ、4月報告分では39日齢でしたが、8月報告分では**30日齢**となっており、改善が見られました。



豚熱ワクチンを最初に打ち始めた第1世代の母豚と比較して、現在の母豚は中和抗体価が上がりにくいいため、移行抗体が早く消失してしまう傾向があります。本来であれば直近の農場の母豚抗体価にもとづき、接種適期を判断することが最も確実です。定期的な母豚抗体価の確認をお願いします。

## 参考 適切なワクチン接種のため、抗体検査を！

免疫付与状況や移行抗体の状況を把握し、ワクチンの接種適期等を検討するために、農場での採血を実施しています。是非とも検査を実施しましょう。

各農場において、**ワクチンの適時接種及び飼養衛生管理基準の遵守の再徹底**をお願いします。

## ・野生イノシシの豚熱感染状況

昨年は佐賀県と愛媛県で野生イノシシの豚熱感染が確認されましたが、今年  
は長崎県、宮崎県、福岡県で初めて感染事例が報告されました。

野生イノシシにおける豚熱の感染は、全国的に拡大傾向にあります。

県内では、4月以降に18頭の豚熱陽性イノシシが確認されてい  
ます。（右図参照）管内では7月29日搬入分までに59頭を検査  
し、うち6頭が陽性でした。

夏季はウイルスが飛散せず、不活化されるため、持ち運ばれるリス  
クが低くなりますが、秋以降はイノシシの活動が活発になり再びリス  
クが高まる可能性があります。



全国における野生イノシシの豚熱検査情報は、右下のQRコードか  
らご覧になれます。

（農林水産省HP：<http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/csf/index.html>）



**ワクチン接種については、記録をきちんととっていただくようお願いします！**

## ◆◆ アフリカ豚熱（ASF）関連情報 ◆◆

### ・韓国におけるASFの発生状況について

韓国では発生が続いており、令和7年7月28日時点で養豚場53件、野生イノシシ4,257  
件の発生が確認されています。夏休み期間中は海外からの渡航者も増え、国内にウイルスが  
持ち込まれるリスクは高くなると予想されます。

ワクチンも治療法もないASFの農場侵入を防ぐためには、日々の飼養衛生管理が最も重  
要です。大切な家畜を守るため、引き続き対策の徹底をお願いします。

## ◆◆ 消毒ポイント利用について ◆◆

常設消毒ポイントを設置しています。豚熱だけでなく、鶏インフルエンザウイルスの持ち  
運びを防ぐ目的もあります。今後も継続して利用をお願いします。

【対象車両】家畜運搬車、飼料運搬車、死亡畜運搬車、  
薬事関係車等、その他必要と認められる  
車両 ※畜種は問いません。

【消毒ポイント設置場所】 JA前橋市 北部支所  
(前橋市富士見町田島259-1)

【設置期間】 令和8年3月13日（金）まで  
【実施時間】 6時から午後6時まで（土日・祝日を含む）



## ◆◆ 夏も家畜防疫対策を徹底してください ◆◆

- 1 アフターコロナも畜産関係者の皆様においては、海外渡航の自粛をお願いします。
  - (1) 鳥インフルエンザ、豚熱、アフリカ豚熱、口蹄疫等の発生地域や非清浄地域への不要不急の渡航は自粛してください。
  - (2) 外国人の従業員を受け入れている方は、日本への持込みが禁止されている肉製品等が海外から持ち込まれることのないよう、従業員への教育をお願いします。
- 2 衛生管理区域及び畜舎内への病原体の持込みを防止しましょう。
- 3 毎日の健康観察を実施し、異常がありましたら家保まで通報をお願いします。
- 4 埋却地の確保をお願いします。  
埋却地について、建設業協会や関係機関とともに現地確認を順次確認を行っています。ご理解とご協力をお願いします。



## ◆◆ 暑熱対策をお願いします ◆◆

今年は9月以降も平均気温が高いと予報されており、残暑も厳しい暑さが続く予想されています。このあとも暑熱対策を継続しましょう！

- (1) 日よけ（寒冷紗、よしず、つる性植物等）を設置する。
- (2) 畜舎内や屋根への散水。屋根へ石灰乳を塗布する。
- (3) ドリップクーリング及び換気扇や送風ダクトによる送風を行う。
- (4) 密飼いにしない。
- (5) 消化のよい良質飼料を給与し、涼しい夜間に食べさせる工夫をする。  
重曹やミネラル、ビタミンを適切に給与する。
- (6) 新鮮な水を十分に飲水できるようにする。
- (7) 家畜に異常がないかよく観察する。



## ◆◆ ハエ対策のポイントと効果的な方法 ◆◆



秋は気温が下がり、過ごしやすい季節となります。一方でハエの繁殖期も終わりに近づくものの、依然として厄介な存在です。継続的な環境管理と適切な対策を行うことで、ハエの発生を最小限に抑え、畜産現場の衛生と家畜の健康を守りましょう。

具体的な考え方は次頁のとおりです。

### 1 ハエの発生原因

秋は気温の変動が激しくなりますが、ハエの繁殖活動は続きます。特に、動物の排せつ物や腐敗した飼料、等の汚れはハエの繁殖場所となりやすくなります。また、落ち葉や不要な飼料の残留もハエの生息地となります。

### 2 ハエ対策のポイント

- ・ **清潔保持**：食べ残しの飼料や排せつ物をこまめに除去し、飼育エリアの掃除を徹底します。
- ・ **排水管理**：水たまりや汚れた水槽の排水を丁寧に行います。
- ・ **落ち葉等の除去**：敷地内の落ち葉や枯れ草を取り除き、ハエの繁殖場所を減らします。

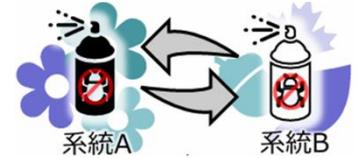
### 3 具体的なハエ対策方法

#### (1) 物理的対策

- **ネットの設置**：畜舎の開放部分に防虫ネットを張り、ハエの侵入を防ぎます。
- **捕虫器の設置**：電気式や粘着式のハエ取り器を適所に設置し、ハエの数を減らします。

#### (2) 化学的対策

• **殺虫剤の使用**：畜産用に認可された殺虫剤を適時適切に使用し、ハエの駆除を行います。ただし、家畜や人への影響に配慮し、使用方法を守ることが重要です。また、同じ薬剤を連用していると、生き延びたサシバエが耐性を持つことがあるのでローテーションして使用しましょう。



- **殺蛆剤の使用**：サシバエ幼虫は、堆肥等の管理+IGR剤で限りなく減らしましょう。冬の成虫1匹は来シーズンの1万匹に相当すると言われています。今から、地域ぐるみで幼虫対策をしましょう！

## ◆◆豚用飼料への牛由来原料(ビーフミール)使用再開について◆◆

令和6年10月3日に「飼料及び飼料添加物の成分規格等に関する省令の一部を改正する省令」が公布・施行され、牛由来原料のビーフミール(牛肉骨粉など)の鶏・豚用飼料への利用が再開されました。牛海綿体脳症(BSE)発生防止のため、A飼料(反すう動物用)にB飼料(鶏・豚用などのA飼料以外)が混入しないよう取り扱いに注意をお願いします。

- (1) A飼料とB飼料は同時又は連続して受入れてはいけません。
- (2) A飼料とB飼料でそれぞれ専用の容器又は保管場所が必要です。
- (3) B飼料は、反すう動物には給与できません。

表示票の「対象家畜等」を確認して使用しましょう。

- (4) 給与の際は、A飼料とB飼料でそれぞれ専用の器具を使いましょう。
- (5) 反すう動物がB飼料を食べないように、飼養場所を区別しましょう。
- (6) ペット用のエサが、A飼料に混入しないように注意しましょう。

家畜保健衛生所は **365日24時間対応**の緊急連絡体制を確保しています。

緊急時にはご連絡ください。

**中部家保** ☎ **027-288-0371**

★ 畜産業を廃業された方にこの「中部家保だより」が送付された場合は、誠にお手数ですが、ご連絡くださいますようお願い申し上げます。